

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 香月 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

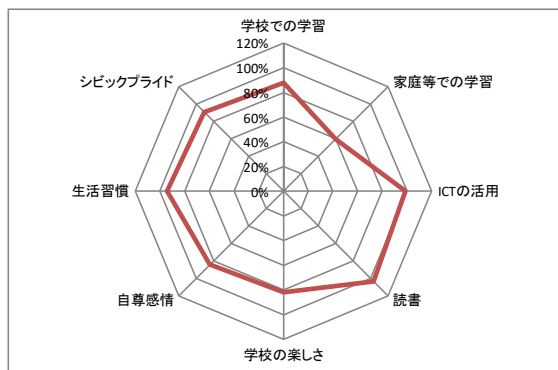
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

| 本年度の結果 | 国語 | | 算数 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 9.3 | 66 | 9.4 | 59 |
| 全国 | 9.4 | 67 | 10.0 | 63 |

(2) 本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|----|-------------|---|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 平均正答率は全国平均より約5%下回ってる。正答数11問以上の層が全国平均と比べても少ない。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 全国平均に一番近かったのは「言葉の特徴や使い方」に関する問題 | |
| | 努力が必要な問題 | 「書くこと」に関する問題 | |
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | 平均正答率は全国平均より約7%下回ってる。正答数7問以下の層が全国平均と比べても多い。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 全国平均に一番近かったのは「変化と関係」に関する問題 | |
| | 努力が必要な問題 | 「データの活用」に関する問題 | |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○「ICTの活用」に関する項目で、肯定的な回答をした児童の割合が高い。 ○「読書は好きですか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が高い。 ●学習の中で自ら課題を持って取り組む姿勢や学習した内容を振り返る活動について否定的な回答をした児童の割合が高い。 ●家庭での学習の取り組み姿勢（計画性・学習時間）について、否定的な回答をした児童の割合が高い。 ●朝食を食べていない児童の割合や、決まった時間に寝ていない児童の割合が高い。 |

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

「振り返り活動」に重点を置いた授業を行うことで、児童一人一人が、自分の課題をつかみ、見通しを持って学習に取り組めるようにしていく。また、ICTの効果的な活用を図り、分かりやすい授業づくりに努めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

児童が、家庭での学習を計画的・効果的に取り組むことができるように、①タブレット端末の週末の持ち帰り②ドリルアプリの効果的な活用をする。また、自主学習の啓発や奨励、家庭への呼びかけをしていく。